

< 地場産農産物の加工・販売を実施している事例 >

地元産そばを核としたグリーン・ツーリズム

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	鳥取県倉吉市明高 <small>くらししみょうこう</small>			
協定面積 36ha	田(99%)	畑(1%)	草地	採草放牧地
	米・そば・大豆	野菜・芝		
交付金額 630万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	機械購入費		25%
		水路・農道管理費		16%
		役員手当・事務費		5%
		推進会議・視察費		3%
その他			1%	
協定参加者	農業者42人			

2. 取組に至る経緯

倉吉市南部に位置し、約50戸で構成されている明高集落は、集落内に4名の認定農業者がいるものの、大半の農作業従事者は兼業農家、50～60歳代が中心であり、将来的に担い手や後継者の育成が急務となっている。また、農業機械の個人所有率が高く、経営を圧迫している。

また、そばを同地区の主な転作作物として位置づけ、平成10年度にそばをメインとした地域活性化の拠点として「明高水車の郷体験工房」(水車で石臼によるそばの粉ひきの見学から、そば打ち体験までできるグリーン・ツーリズム受け入れ施設)を県事業で整備し、協定参加者を主とする地元住民の連携により、グリーン・ツーリズムの定着を目指している。

3. 取組の内容

地域の水田維持のため、5haの受益を見込んで共同利用機械の導入を行うとともに、専任のオペレーターの育成を検討している。平成16年度以前は集落内に6協定が存在していたが、協定間で耕作者、受託者等が重複していたため、平成17年度から各協定を1つに統合し、集落レベルで農作業の効率化が図られるよう体制整備を行った。

その結果、そば・大豆の作付け面積が徐々に拡大し、年間を通してそば・豆腐の加工・販売を行うことが可能となった。

これら地域が一丸となった取組、中山間地域農業の果たす役割の大切さをPRするため、11月にそばの収穫祭を開催、イベント、農産物の加工・販売を通じて来訪者との交流を深めることに成功している。

「食のありがたさ・うれしさ」が体験できる明高流グリーン・ツーリズムの推進・継承を図るため、これからもそば打ち体験等による都市住民との交流を行っていく。



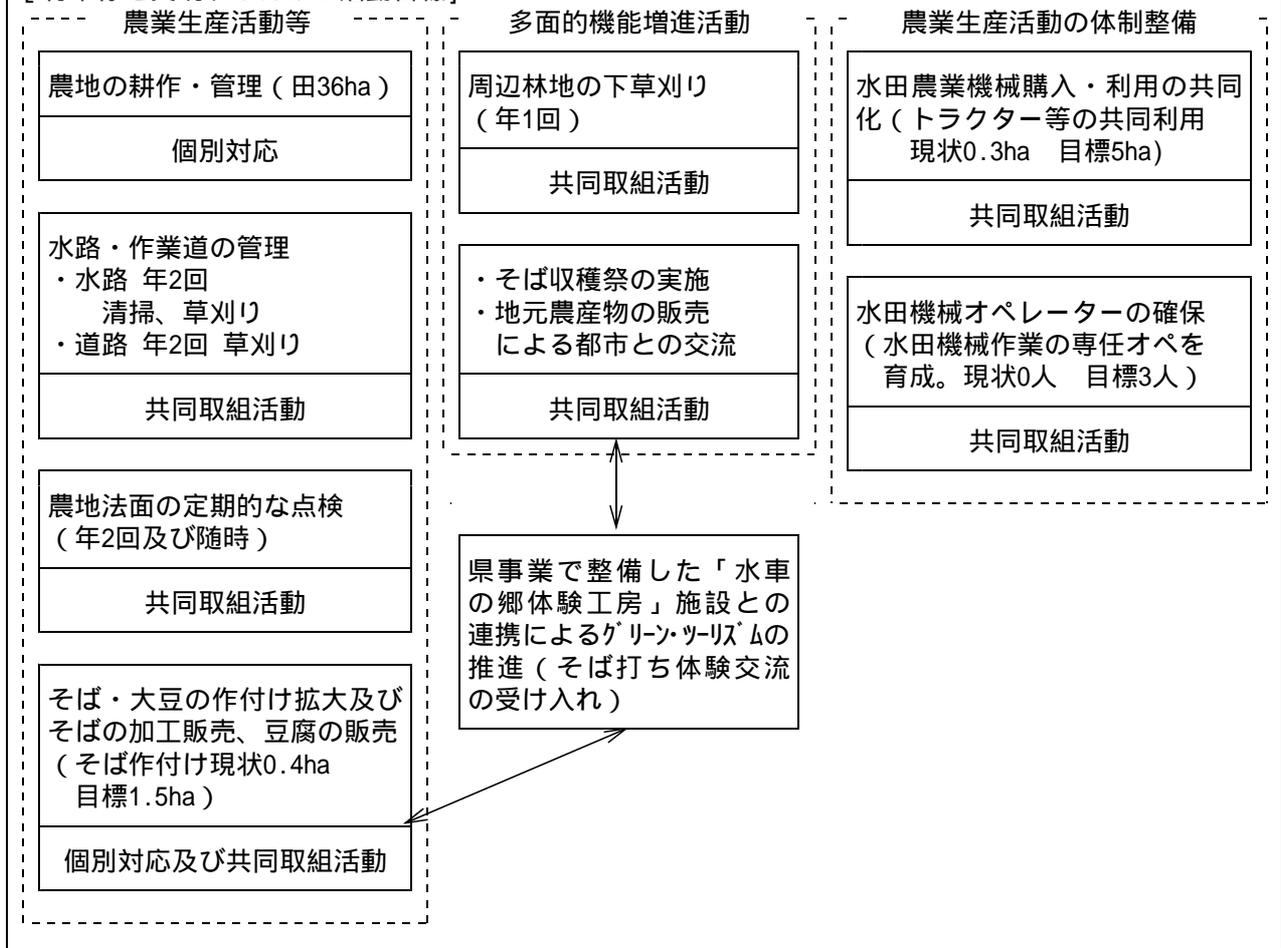
明高水車の郷体験工房

[集落の将来像]

協定内の農地を中心に集落ぐるみで集落内の農地を守っていくため、水田農業用機械の共同購入・利用を行い、経済的・労力的な負担を軽減する。あわせて、専任オペレーターの養成を行う。
また、水車の郷体験工房を利用したグリーンツーリズム受入活動に取組み、そば打ち体験交流を通して、中山間地域の農業を集落外の方にも理解してもらう。



[将来像を実現するための活動目標]



4 . 取組による変化と今後の課題等

そばを中心とした活動により、地域の連携が生まれるとともに、地区外者との交流が図られた。

将来的には、協定対象外の農地も含む、個人で管理できなくなった地域の農地を維持・管理していくため、認定農業者への利用権設定、基幹作業委託、集落の共同作業による保全管理、集落営農組織の育成を検討する必要がある。

[平成20年度までの主な成果]

水田農作業機械導入 (コンバイン 1 台) 機械共同利用面積増 (当初0ha、目標5ha、H20実績0.3ha)
40～60歳代の水田作業オペレーター 4名確保
そばの作付け拡大 (当初0.4ha、目標1.5ha、H19実績1ha)
都市住民との交流による地域の活性化 (そば打ち体験、収穫祭等の実施)
・そば打ち体験 (目標1,000組/年、H19実績1,300組 + 収穫祭300名、H20実績ほぼ同人数)